	
外形	全長：14.5mm キャップ部直径：5.2mm ボディ部直径：5.0mm 重量：179mg	全長：14.5mm キャップ部直径：5.2mm ボディ部直径：5.0mm 重量：214mg
色	白色	キャップがだいたい色、ボディが白色
識別コード	TC442	TC443

【この薬に含まれているのは？】

販売名	ティーエスワンカプセル 20	ティーエスワンカプセル 25
有効成分	テガフル・ギメラシル・オテラシルカリウム	
添加物	乳糖、ステアリン酸マグネシウム、ゼラチン、ラウリル硫酸ナトリウム、酸化チタン	乳糖、ステアリン酸マグネシウム、ゼラチン、ラウリル硫酸ナトリウム、酸化チタン、黄色 5 号

【その他】

●この薬の保管方法は？

- ・直射日光と湿気を避けて室温（1～30℃）で保管してください。
- ・子供の手の届かないところに保管してください。

●薬が残ってしまったら？

- ・絶対に他の人に渡してはいけません。
- ・余った場合は、処分の方法について薬局や医療機関に相談してください。余った薬を自分の判断で使用してはいけません。

【この薬についてのお問い合わせ先は？】

- ・症状、使用方法、副作用などのより詳しい質問がある場合は、主治医や薬剤師にお尋ねください。
- ・一般的な事項に関する質問は下記へお問い合わせください。

製造販売会社：大鵬薬品工業株式会社

(<http://www.taiho.co.jp/>)

医薬品情報室

電話番号：0120-20-4527

受付時間：9 時～17 時 30 分

（土、日、祝日、その他当社の休業日を除く）

メプチンキッドエア－5 μ g

【この薬は？】

販売名	メプチンキッドエア－5 μ g Meptin kid air 5 μ g
一般名	塩酸プロカテロール procaterol hydrochloride
含有量 (1 噴霧中)	5 μ g

患者向医薬品ガイドについて

患者向医薬品ガイドは、患者の皆様や家族の方などに、医療用医薬品の正しい理解と、重大な副作用の早期発見などに役立てていただくために作成したものです。

したがって、この医薬品を使用するときに特に知っていただきたいことを、医療関係者向けに作成されている添付文書を基に、わかりやすく記載しています。

医薬品の使用による重大な副作用と考えられる場合には、ただちに医師または薬剤師に相談してください。

ご不明な点などありましたら、末尾に記載の「お問い合わせ先」にお尋ねください。

さらに詳しい情報として、「医薬品医療機器情報提供ホームページ」
<http://www.info.pmda.go.jp/> に添付文書情報が掲載されています。

【この薬の効果は？】

- ・この薬は、気管支拡張剤と呼ばれるグループに属する吸入剤です。
- ・この薬は、気管支に作用し、狭くなった気道を広げることにより、呼吸を楽にします。
- ・次の病気の人に処方されます。

下記疾患の気道閉塞性障害に基づく諸症状の緩解

気管支喘息、慢性気管支炎、肺気腫

- ・喘息の方は、喘息発作がおこったときに使用します。

【この薬を使う前に、確認すべきことは？】

○次の人は、この薬を使用することはできません。

- ・過去にメプチンキッドエア－5 μ g に含まれる成分で過敏な反応を経験したことがある人。
- ・この薬には添加物として無水エタノールが使用されています。アルコールに敏感な方は医師または薬剤師に相談してください。

○次の人は、慎重に使う必要があります。使用する前にそのことを医師または薬剤師に教えてください。

- ・甲状腺機能亢進症の人
- ・高血圧の人
- ・心臓に障害のある人
- ・糖尿病の人
- ・妊婦または妊娠の可能性がある人

○この薬には併用を注意すべき薬があります。他の薬を使用している場合や、新たに使用する場合は、必ず医師または薬剤師に相談してください。

【この薬の使い方は？】

●使用量および回数

使用量は、あなたの症状などにあわせて、医師が決めます。
一般的に使用する量は、次のとおりです。

	1回の吸入量
成人	4吸入
小児	2吸入

1日の吸入回数は最大4回（原則として成人16吸入、小児8吸入）までとしてください。

- ・喘息の方は、喘息発作がおこったときに使用します。

●使用できる回数は？

- ・この薬は1缶で約100回噴霧できます。

●どのように使用するか？

- ・この薬の専用アダプターを使用してください。
- ・吸入する前によく振ってから使用してください。
- ・必ず、医師の指示に従い、使用する時は携帯袋及び使用説明書の「メプチンキッドエア-5 μ gを正しくお使いいただくために」をよく読んで使用してください。
- ・お子さんが使用する場合は、保護者の方が使用法を正しく指導し、保護者の監視下で使用してください。
- ・吸入終了後はうがいをするように心がけてください。

・吸入方法

- ① キャップをはずして、
- ② ボンベの底が上になるように容器を正しく持ち、よく振ります。(悪い例は図1のようにボンベの底を下にして持っています。)
- ③ アダプターの吸入口を唇から3～4 cm 離して口を大きく開けます(図2)。
[または、アダプターを軽く歯でかんで口を大きく開けます(図3)。]
- ④ 息をはいて、息を吸い始めると同時にボンベをしっかりと確実に1回押し、お薬をゆっくり深く吸い込みます。
- ⑤ お薬を吸い込んだ状態で数秒間、息を止めます。
- ⑥ 息をゆっくりはき出します。
- ⑦ 2吸入以上する場合は、1分程度の間をおいて②～⑥の手順を繰り返します。この時、連続して噴霧すると決められた薬液量が噴霧されないので、ボンベが戻るまで待ってから吸入してください。
- ⑧ 吸入終了後はうがいをするように心がけてください。
- ⑨ 使用後はキャップをつけます。



●効果が不十分な場合の対応

発作が重篤で、この薬の効果が不十分な場合には、できるだけ早く受診してください。

●多く使用した時（過量使用時）の対応

血清カリウム値の低下等により、頻脈、動悸等の症状があらわれることがあります。このような症状があらわれた場合にはただちに使用を中止し、医師または薬剤師に連絡してください。また、過度の使用により、心停止のおそれがあります。

【この薬の使用中に気をつけなければならないことは？】

- ・ 過度の使用により重篤な副作用があらわれることもあるので、患者または保護者が正しい使用方法について十分に理解できるまで説明を受けてください。
- ・ 指示された使用量および回数を必ず守ってください。小児が使用する場合には、家族も正しい使用方法を理解して監督してください。
- ・ 過度に使用すると血清カリウム値の低下等により、頻脈、動悸等の症状があらわれることがあります。このような症状があらわれたらただちに使用を中止し、医師または薬剤師に連絡してください。また、過度の使用により、心停止のおそれがあります。特に発作発現時は使用が過度になりやすいので、1回の吸入数、1日の吸入回数等に十分注意してください。

- ・指示された使用量および回数どおりに正しく使用してもこの薬の効果が認められない場合は、ただちに医師に相談してください。
- ・発作が重篤でこの薬の効果が不十分な場合は、できるだけ早く受診してください。
- ・妊婦または妊娠の可能性のある人は医師に相談してください。
- ・授乳は避けてください。
- ・他の医師を受診する場合や、薬局などで他の薬を購入する場合は、必ずこの薬を使用していることを医師または薬剤師に伝えてください

副作用は？

特にご注意いただきたい重大な副作用と、それぞれの主な自覚症状を記載しました。副作用であれば、それぞれの重大な副作用ごとに記載した主な自覚症状のうち、いくつかの症状が同じような時期にあらわれることが一般的です。このような場合には、ただちに医師または薬剤師に相談してください。

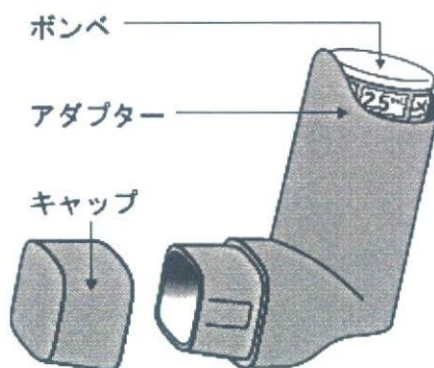
重大な副作用	主な自覚症状
ショック しよっく	めまい、頭痛、立ちくらみ
アナフィラキシー様症状 あなふいらきしーようしょうじょう	しゃがれ声、眼と口唇のまわりのはれ、じんましん、判断力の低下、動悸、息切れ、息苦しい、からだがだるい、考えがまとまらない、ほてり、意識の低下、ふらつき
重篤な血清カリウム値の低下 じゅうとくなけっせいかりうむちのていか	筋力の低下、息苦しい、判断力の低下、考えがまとまらない、脱力感、口渇、意識がうすれる、手足のまひ

以上の自覚症状を、副作用のあらわれる部位別に並び替えると次のとおりです。これらの症状に気づいたら、重大な副作用ごとの表をご覧ください。

部位	自覚症状
全身	からだがだるい、ふらつき、脱力感、立ちくらみ
頭部	考えがまとまらない、めまい、意識がうすれる、意識の低下、頭痛
顔面	ほてり
眼	眼と口唇のまわりのはれ
口や喉	しゃがれ声、眼と口唇のまわりのはれ、口渇
胸部	動悸、息苦しい、息切れ
手・足	手足のまひ
皮膚	じんましん
筋肉	筋力の低下
その他	判断力の低下

【この薬の形は？】

- ・アルミニウム缶（ボンベ）に入った吸入剤です。
- ・アダプターの色：青色
- ・キャップの色：青色



【この薬に含まれているのは？】

有効成分	塩酸プロカテロール (1噴霧中 $5\mu\text{g}$ 含有) 1缶約100噴霧
添加物	無水エタノール, オレイン酸, 1, 1, 1, 2, 3, 3, 3-ヘプタフルオロ プロパン (HFA-227)

【その他】

●この薬の保管方法は？

- ・直射日光と湿気を避けて室温（1～30℃）で保管してください。
- ・子供の手の届かないところに保管してください。
- ・アダプターの吸入口は時々温水でよく洗い、清潔に保管してください。

●廃棄方法は？

- ・使用後、火中に投入しないでください。
- ・地方自治体により定められた廃棄処理法にしたがってください。（この容器の材質は、ボンベはアルミニウム、アダプターおよびキャップはプラスチックです。）

●薬が残ってしまったら？

- ・絶対に他の人に渡してはいけません。
- ・余った場合は、処分の方法について薬局や医療機関に相談してください。

【この薬についてのお問い合わせ先は？】

- ・症状、使用方法、副作用などのより詳しい質問がある場合は、主治医や薬剤師にお尋ねください。
- ・一般的な事項に関する質問は下記へお問い合わせください。

製造販売会社 大塚製薬株式会社 (<http://www.otsuka.co.jp>)

医薬情報センター

電話番号：03-3257-6599

ヒューマカートN注

ヒューマカートN注 (キット)

【この薬は？】

販売名	ヒューマカートN注 Humacart N	ヒューマカートN注 (キット) Humacart N
一般名	ヒトインスリン (遺伝子組換え) Insulin human (genetical recombination)	
含有量 (1 製剤中)	300 単位	

患者向医薬品ガイドについて

患者向医薬品ガイドは、患者の皆様や家族の方などに、医療用医薬品の正しい理解と、重大な副作用の早期発見などに役立てていただくために作成したものです。

したがって、この医薬品を使用するときに特に知っていただきたいことを、医療関係者向けに作成されている添付文書を基に、わかりやすく記載しています。

医薬品の使用による重大な副作用と考えられる場合には、ただちに医師または薬剤師に相談してください。

ご不明な点などありましたら、末尾に記載の「お問い合わせ先」にお尋ねください。

さらに詳しい情報として、「医薬品医療機器情報提供ホームページ」
<http://www.info.pmda.go.jp/> に添付文書情報が掲載されています。

【この薬の効果は？】

- ・この薬は、中間型インスリン製剤と呼ばれるグループに属する注射薬です。
- ・この薬は、細胞内への糖の取り込み、肝臓での糖新生の抑制、および肝臓、筋肉におけるグリコーゲン合成の促進作用などにより血糖値を下げます。
- ・次の病気の人に処方されます。

インスリン療法が適応となる糖尿病

- ・この薬は、医療機関において、適切な在宅自己注射教育を受けた患者または家族の方は、自己注射できます。自己判断で使用を中止したり、量を加減せず、医師の指示に従ってください。

【この薬を使う前に、確認すべきことは？】

○次の人は、この薬を使用することはできません。

- ・低血糖症状の人
- ・過去にヒューマカートN注に含まれる成分で過敏な反応を経験したことがある人

○次の人は、慎重に使う必要があります。使い始める前に医師または薬剤師に告げてください。

- ・インスリンの必要量の変動が激しい人
 - ・手術をした人、外傷をうけた人、感染症にかかっている人
 - ・妊娠している人
- ・低血糖を起こしやすい次の人
 - ・肝臓または腎臓に重篤な障害がある人
 - ・脳下垂体または副腎機能に異常のある人
 - ・下痢または嘔吐（おうと）などの胃腸障害のある人
 - ・飢餓状態の人、不規則な食事の人
 - ・激しい筋肉運動をしている人
 - ・飲酒量の多い人
 - ・高齢の人
- ・低血糖を起こすと事故につながるおそれがある人（高所作業、自動車の運転などの作業に従事している人など）
- ・自律神経に障害のある人

○この薬には併用を注意すべき薬があります。他の薬を使用している場合や、新たに使用する場合は、必ず医師または薬剤師に相談してください。

【この薬の使い方は？】

この薬は注射薬です。

●使用量および回数

使用量と回数は、あなたの症状などにあわせて、医師が決めます。

通常、成人では初期は1回4～20単位を朝食前30分以内に皮下注射しますが、ときに注射回数を増やしたり、他のインスリン製剤を併用します。維持量は通常1日4～80単位です。

ただし、必要により上記用量を超えて使用することがあります。

●どのように使用するか？

具体的な使用方法については、末尾に別途添付しています。

〔ヒューマカートN注(カートリッジ製剤)〕

- ・ペン型注入器および使い捨ての注射針を用いて皮下注射します。
- ・必ずペン型注入器の取扱説明書を読んでください。

〔ヒューマカートN注（キット）（キット製剤）〕

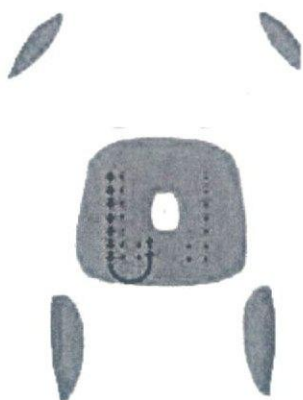
- ・カートリッジ製剤と使い捨てのできるインスリン用のペン型注入器との一体型で、使い捨ての注射針を用いて皮下注射します。

〔この薬を使用する全ての人に共通〕

- ・必ず添付の取扱説明書を読んでください。
- ・一本のヒューマカートN注を複数の人で使用しないでください。

- ・皮下注射は、腹部、大腿部（だいたいふ）、上腕部、臀部（でんぶ）などに行います。注射部位により吸収速度がことなるので、部位を決め、その中で、前回の注射場所から2～3 cm離して注射してください。

インスリンの注射部位



- ・静脈内に注射しないでください。
- ・使用済みの注射針は、取り外した針先が突き出ないような安全な容器に入れた後、子供の手の届かないところに保管してください。

●使用し忘れた場合の対応

- 決して2回分を一度に注射しないでください。
- 注射をし忘れた場合は、医師に相談してください。

●多く使用した時（過量使用時）の対応

- ・低血糖症状（脱力感、強い空腹感、冷や汗、動悸（どうき）、手足のふるえ、意識が薄れるなど）があらわれる可能性があります。
- ・低血糖症状が認められるものの、意識障害がない場合は、通常は砂糖を飲食してください。α-グルコシダーゼ阻害剤（アカルボース、ボグリボース、ミグリトール）を併用している場合は、ブドウ糖を飲食してください。意識が薄れてきた場合は、すぐに受診してください。
- ・低血糖症状の一つとして意識障害をおこす可能性もありますので、この薬を使用していることを必ずご家族やまわりの方にも知らせてください。

【この薬の使用中に気をつけなければならないことは？】

- ・この薬を使用するにあたっては、注射法や低血糖症状への対処法などについて、患者さんまたは家族の方は十分に理解できるまで説明を受けてください。
- ・指示された時間に食事をとらなかったり、食事の量が少なかったり、予定外の激しい運動を行った場合、低血糖症状があらわれることがあります。低血糖症状に関する注意を必ずご家族にも知らせてください。低血糖症状が認められるものの、意識障害がない場合は、通常は砂糖を飲食してください。α-グルコシダーゼ阻害剤（アカルボース、ボグリボース、ミグリトール）を併用している場合は、ブドウ糖を飲食してください。意識が薄れてきた場合は、すぐに受診してください。**副作用は？**に書かれていることに特に注意してください。
- ・使用方法に間違いがあったり使用を忘れたりして、体内のインスリンが不足すると高血糖（体がだるい、脱力感）を起こすことがあります。これらの症状が

あらわれたら受診してください。

- ・急激な血糖のコントロールに伴い、糖尿病性網膜症があらわれたり、悪化したり、目の屈折異常がおこったり、痛みを伴う神経障害があらわれることがあります。
- ・高所での作業や自動車の運転等、危険を伴う作業に従事しているときに低血糖を起こすと事故につながるおそれがありますので、特に注意してください。
- ・妊婦または妊娠している可能性がある人は医師に相談してください。
- ・他の医師を受診する場合や、薬局などで他の薬を購入する場合は、必ずこの薬を使用していることを医師または薬剤師に伝えてください。

副作用は？

特にご注意いただきたい重大な副作用と、それぞれの主な自覚症状を記載しました。副作用であれば、それぞれの重大な副作用ごとに記載した主な自覚症状のうち、いくつかの症状が同じような時期にあらわれることが一般的です。

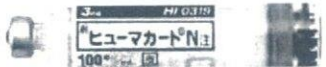
このような場合には、ただちに医師または薬剤師に相談してください。

重大な副作用	主な自覚症状
低血糖 ていけっとう	めまい、空腹感、ふらつき、手足のふるえ、脱力感、頭痛、動悸、冷や汗
アナフィラキシーショック アナフィラキシーショック	ふらつき、眼と口唇のまわりのはれ、しゃがれ声、意識の低下、息切れ、判断力の低下、動悸、からだがだるい、ほてり、考えがまとまらない、じんましん、息苦しい
血管神経性浮腫 けっかんしんけいせいふしゅ	息苦しい、じんましん、まぶたのはれ、唇のはれ

以上の自覚症状を、副作用のあらわれる部位別に並び替えると次のとおりです。これらの症状に気づいたら、重大な副作用ごとの表をご覧ください。

部位	自覚症状
全身	ふらつき、脱力感、冷や汗、からだがだるい
頭部	めまい、頭痛、意識の低下、考えがまとまらない
顔面	ほてり
眼	眼と口唇のまわりのはれ
口や喉	眼と口唇のまわりのはれ、しゃがれ声
胸部	動悸、息切れ、息苦しい
腹部	空腹感
手・足	手足のふるえ
皮膚	じんましん
その他	判断力の低下

【この薬の形は？】

販売名	ヒューマカートN注	ヒューマカートN注(キット)
性状	白色の懸濁液で、放置するとき、白色の沈殿物と無色の上澄液に分離し、この沈殿物は、振り混ぜるとき、再び容易に懸濁状となる。	白色の懸濁液で、放置するとき、白色の沈殿物と無色の上澄液に分離し、この沈殿物は、振り混ぜるとき、再び容易に懸濁状となる。
内容量	3mL	3mL
容器の形状		

ペン型注入器



【この薬に含まれているのは？】

有効成分	ヒトインスリン (遺伝子組換え)
添加物	硫酸プロタミン、酸化亜鉛、濃グリセリン、m-クレゾール、液状フェノール、リン酸一水素ナトリウム・七水和物、pH 調節剤

【その他】

●この薬の保管方法は？

〔ヒューマカートN注（カートリッジ製剤）の場合〕

- ・ 凍結を避けて冷蔵庫など(2～8℃)で保管してください。光を避けてください。
- ・ カートリッジをインスリン用のペン型注入器に装着したまま、冷蔵庫に保管しないでください。

〔ヒューマカートN注（キット）（キット製剤）の場合〕

- ・ 凍結を避けて冷蔵庫など(2～8℃)で保管してください。光を避けてください。
- ・ 使用中は冷蔵庫に保管しないでください。

〔共通〕

子供の手の届かないところに保管してください。

●薬が残ってしまったら？

- ・ 絶対に他の人に渡してはいけません。

- ・余った場合は、処分の方法について薬局や医療機関に相談してください。

●**廃棄方法は？**

- ・使用済みのヒューマカートN注のカートリッジ・ヒューマカートN注キットのキットについては、医療機関の指示どおりに廃棄してください。

【この薬についてのお問い合わせ先は？】

- ・症状、使用方法、副作用などのより詳しい質問がある場合は、主治医や薬剤師にお尋ねください。
- ・一般的な事項に関する質問は下記へお問い合わせください。

製造販売会社：日本イーライリリー株式会社 (<http://www.lilly.co.jp>)

日本イーライリリー医薬情報問合せ窓口

Lilly Answers（リリーアンサーズ）

電話：0120-245-970（一般の方、患者様向け）

受付時間：8時45分～17時30分

（土、日、祝日、その他当社の休業日を除く）

ヒューマペン®ラグジュラ

インスリンペン型注入器



注射の準備をします

注射の準備を行う前に必ず手を洗ってください。また、下記のものがそろっているか確認してください。

- ヒューマペンラグジュラ
- ヒューマログ®注、ミックス25注、ミックス50注、N注またはヒューマカート®R注、N注、3/7注の3mLカートリッジ製剤（100単位/mL以下、「弊社の3mLインスリンカートリッジ」といいます）
- 新しい注射針
- アルコール綿

1. インスリンカートリッジを装着します

① キャップをはずします



② カートリッジホルダーを取りはずします



③ インスリンカートリッジを装着します



弊社の3mLインスリンカートリッジの細い方を先にして、カートリッジホルダーに入れてください。

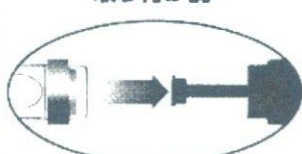
注意：

装着する前にインスリンカートリッジにひび割れや破損がないことを確認してください。

初回使用時：ピストン棒が図のように出ていないことがあります。異常ではありません。そのままカートリッジを入れたカートリッジホルダーを本体に取り付けてください。

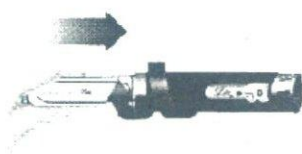
④ カートリッジホルダーを取り付けます

取り付け前

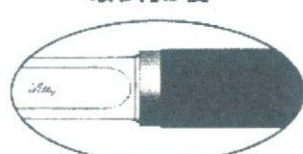


カートリッジのガスケットをピストン棒の先端の円盤に押し当てて、ピストン棒をゆっくりと押し戻してください。この時に円盤には手を触れないでください。また、ピストン棒は引っ張らないでください。

取り付け後

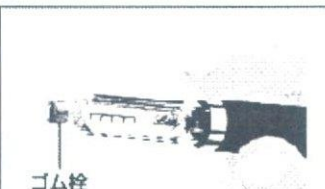


カートリッジホルダーをペン本体にまっすぐ押し付けたまま、時計方向に回してしっかりと取り付けてください。



カートリッジホルダーがペン本体にしっかりと取り付けられていることを確認してください。カートリッジホルダーの取り付けが不完全な場合、ピストン棒が動かず、設定量が投与できないことがあります。

⑤ インスリンを確認します

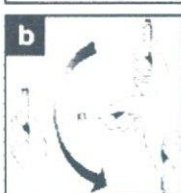


インスリンの種類、使用期限、状態を確認してください。

懸濁したインスリンをご使用の場合



ヒューマペン®ラグジュラをゆっくり10回以上転がします(a)。



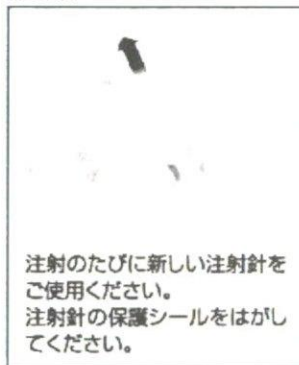
次に、インスリンが均一に混ざるまでゆっくりと上下に10回以上振ってください(b)。

懸濁したインスリン製剤には、よく混ざるようにガラスビーズが入っています。

カートリッジの先端のゴム栓をアルコール綿でいねいに拭いてください。

2. 空打ち（注射の前に必ず行ってください）

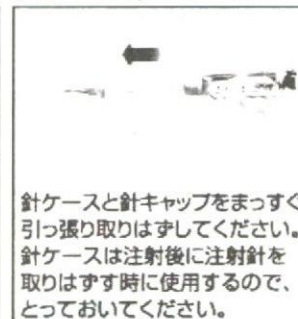
① 保護シールをはがします



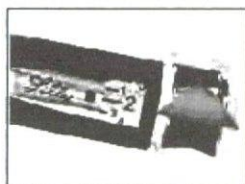
② 注射針を取りつけます



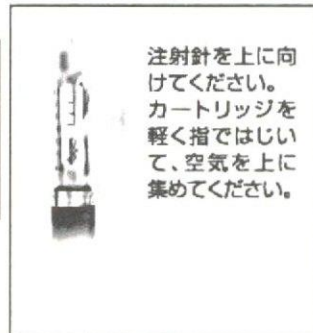
③ 針ケースと針キャップをはずします



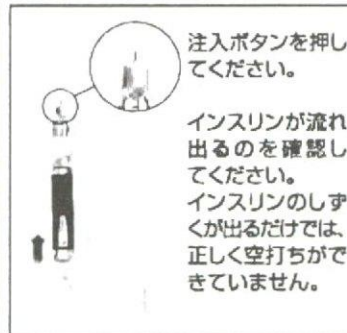
④ 単位設定ダイヤルを2単位に合わせます



⑤ カートリッジを軽く指ではじきます



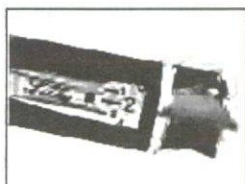
⑥ 空打ちをします



注意：初回カートリッジ使用時は、空打ちを繰り返すことが必要な場合があります。空打ちを繰り返してもインスリンが流れ出てこない時は、針が詰まっている可能性があります。

インスリンが流れ出なければ、空打ちを繰り返してください。

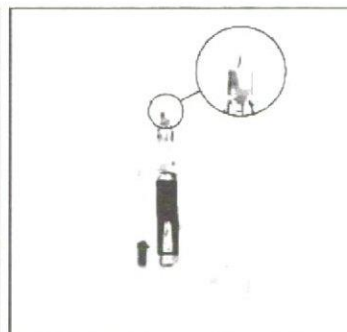
単位設定ダイヤルを2単位に合わせます。



カートリッジを軽く指ではじいてください。

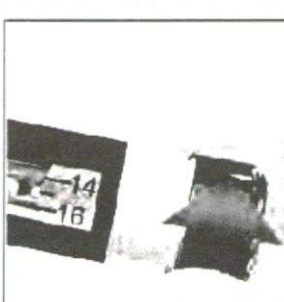


注入ボタンを押して、インスリンが流れ出るのを確認してください。



3. 注射

① 主治医に指示された単位を設定します



単位設定ダイヤルを時計方向に回して単位を設定してください。

間違えて単位を多く設定してしまった場合は、単位設定ダイヤルを逆方向（反時計方向）に回すことで、単位を修正することができます。

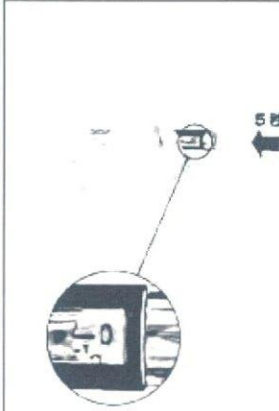
図は15単位に設定した例が示されています。

② 注射をします



注射する場所を消毒し、主治医に指示された方法で注射針を皮膚にさします。

注入が重く感じられる時は、注入をゆっくりと行うようにしてください。図のように親指を注入ボタンにまっすぐ置き、そして注入ボタンが止まるまでゆっくりとまっすぐに押します。



5秒

注入ボタンを押したまま5秒以上待ち、そのあと注入ボタンを押したまま注射針を皮膚から抜いてください。

単位表示窓に「0」と表示されていることを確認してください。これは、設定量すべてが注射されていることを示しています。

注意：

- カートリッジに残っているインスリン量以上の単位を設定することができます。
- 注射が終了すると、単位表示窓に「0」と表示されています。「0」でない場合は、その数が注射できなかったインスリン量ですので、その数字を覚えておいてください。
- 針と空になったカートリッジを取りはずしてください。
- 新しいカートリッジを「1. インスリンカートリッジを装着します」に従って装着し、「2. 空打ちをします（注射の前に必ず行ってください。）」に従って空打ちしてください。
- 注射できなかったインスリン量を注射してください。

③ 注射針を取りはずします



主治医の指示に従い、指などをささないよう慎重に針ケースを取り付けてください。

注意：針ケースをまっすぐにかぶせないと、注射針が針ケースを突き破るおそれがありますので、十分に注意してください。空気の混入を防ぐために、注射針を付けたままでペンを保管しないでください。



カートリッジホルダーを持ち、注射針を反時計方向に回して取りはずします。取りはずした針は主治医の指示に従って廃棄してください。

④ キャップをします



操作方法—インスリンカートリッジの交換



インスリンカートリッジが空になったら注射針を取りはずし、カートリッジホルダーを反時計方向に回して、ペン本体から取りはずしてください。



カートリッジホルダーを傾けて、空になったインスリンカートリッジを取り出してください。



新しいカートリッジにひび割れや破損がないことを確認してください。弊社の3mLインスリンカートリッジの細い方を先に、カートリッジホルダーに入れてください。

ヒューマカートN注 (キット)

注射の手順

①インスリンの準備

- 1 注射の準備を行う前に、インスリンに異常がないか確認してください。
- 2 本剤のラベルが、主治医から指示されたインスリンの種類と同一であることを確認してください。
- 3 注射の準備を行う前に必ず手を洗ってください。
- 4 キャップを引っ張ってはずします。



5 懸濁したインスリン製剤をご使用の場合

- 右図の様に本剤をゆっくり10回以上転がします。



- 次に、インスリンが均一に混ざるまでゆっくりと上下に10回以上振ってください。



注 懸濁したインスリン製剤には、よく混ざるようにガラスビーズが入っています。

- 6 カートリッジの先端のゴム栓をアルコール綿でいねいに拭いてください。

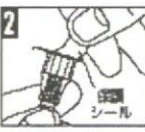


②注射針の取り付け

本剤には、日本ベクトン・ディッキンソン株式会社製のディスポーザブル注射針が適合しています。

- 1 注射のたびに新しい注射針をご使用ください。針を取り付けずに注入ボタンを押さないでください。針を取り付けたまま保管すると、インスリンがもれたり、カートリッジの中に空気が混入することがあります。

- 2 注射針の保護シールをはがしてください。



- 3 針ケースごと注射針を時計方向に回して、しっかりと取り付けます。



- 4 注射針を上に向けた状態で針ケースを取りはずします。針ケースは注射針を取りはずすときにも使用しますので捨てないでください。



- 5 針キャップを取りはずし、そのまま廃棄してください。

③空打ち

- 注射のたびに必ず空打ちを行ってください。空打ちは空気抜きを行い、また注射針の先からインスリンが出ることで、注射ができることを確認するための大切な操作です。

- 空打ちを行わないと、インスリン量が設定量を超えるか、あるいは不足するおそれがあります。

カートリッジの中に小さな気泡が残ることがありますが問題はありません。空打ちの時に出るインスリンの量は、気泡の量などによって変動しますが、この時インスリンが出てくることが確認できれば、引き続いて行うインスリンの注射量に影響はありません。

- 1 単位表示窓の中央に矢印①が表示されていることを確認してください。



- 2 矢印①が単位表示窓の中央に表示されていない場合は、注入ボタンを最後まで完全に押し込み、矢印①が中央に表示され、本剤本体と単位設定ダイヤルのノッチがそろうまで、単位設定ダイヤルを時計方向に回してください。

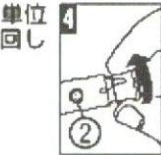


- 3 単位表示窓の中央に矢印①が表示されていることを確認してから、単位設定ダイヤルを矢印①の方向へ、単位表示窓に「0」が表示されるまで引っ張ってください。



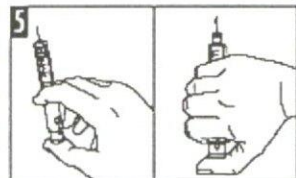
- この時、注入ボタンを押さないようにして単位設定ダイヤルを引っ張ってください。注入ボタンを押したまま単位設定ダイヤルを引っ張ると、単位設定ダイヤルが正常に作動しなくなることがあります。

- 4 単位設定ダイヤルを時計方向に、単位表示窓に「2」が表示されるまで回します。

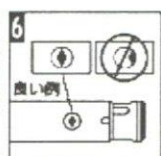


- 5 注射針を上に向けて

本剤を持ち、透明なカートリッジホルダーを軽く指ではじくことで気泡が上部に集まります。親指で注入ボタンを最後まで完全に押し込み、針先から出てくるインスリンが止まるまで注入ボタンを押し続けます。この時、針先にインスリンのしずくが出てくる、または勢よくインスリンが流れ出ます。針先からインスリンが出てこない場合は1から5までの操作を繰り返します。これを数回繰り返しても針先からインスリンが出てこない場合は、注射針を新しいものと交換してから、再度空打ちを行ってください。



- 6 空打ちが終わると、ダイヤモンド②が単位表示窓の中央に表示されます。もしダイヤモンド②が単位表示窓の中央に表示されていない場合は、単位表示窓の中央にダイヤモンド②が表示されるまで注入ボタンを最後まで完全に押し込んでください。



注3 空打ちの操作を行っても小さな気泡が残ることがあります。正しく空打ちの操作ができていれば、わずかに気泡が残っていてもインスリンの注射量に影響はありません。

7 これで単位の設定のための準備が整いました。次の「④単位の設定」に進んでください。

④単位の設定

●注射のたびに新しい注射針をご使用ください。針を取り付けたまま保管すると、インスリンがもれたり、カートリッジの中に空気が混入することがあります。

注3 単位設定を行っている間は注入ボタンを押さないでください。本取扱説明書の指示に正しく従わなかった場合は、インスリン量が設定量を超えるか、あるいは不足するおそれがあります。単位設定を行っている間に注入ボタンを押してしまった時は、そのまま注射をしないで、2ページの「3 空打ち」を参照し、再度空打ちからやり直してください。

1 単位設定を行う前には、ダイヤモンド⑥が単位表示窓の中央に表示されていないはいけません。ダイヤモンド⑥が単位表示窓の中央に表示されていない場合は、正しく空打ちが行われていないので、単位設定は行わず、再度空打ちを行ってください。



2 単位設定ダイヤルを時計方向に、矢印⑨が単位表示窓の中央に表示され、本剤本体と単位設定ダイヤルのノッチがそろうまで回してください。



3 矢印⑨を単位表示窓の中央に表示した状態で、単位設定ダイヤルを矢印⑨の方向へ、単位表示窓に「0」が表示されるまで引っ張ります。単位設定ダイヤルを引っ張らないと単位設定はできません。



注3 この時、注入ボタンを押さないように単位設定ダイヤルを引っ張ってください。

4 主治医に指示された単位が単位表示窓に表示されるまで、単位設定ダイヤルを時計方向に回します。単位を多く設定してしまった場合は、単位設定ダイヤルを逆(反時計方向)に回して、正しい単位が表示されるまで戻してください。



指示された単位まで設定できない場合は、本取扱説明書の「こんな時は」の(6)をご覧ください。

⑤注射の仕方

●注射のたびに新しい注射針をご使用ください。針を取り付けたまま保管すると、インスリンがもれたり、カートリッジの中に空気が混入することがあります。

注3 注射の途中で設定した単位を変更しないでください。本取扱説明書の指示に正しく従わなかった場合は、インスリン量が設定量を超えるか、あるいは不足するおそれがあります。

●注射時、管段より注入ボタンが重く感じる場合があります。注入ボタンの中心をまっすぐ押すようにしてください。注入ボタンを最後まで完全に押し込めない場合は、本取扱説明書の「こんな時は」の(1)をご覧ください。

●注射の前に必ず空打ちを行ってください。空打ちを行わなかった場合は、インスリン量が設定量を超えるか、あるいは不足するおそれがあります。

注射針を取り付けずに単位設定を行い注入ボタンを押した場合や、注入ボタンを押してもインスリンが出てこない場合は、本取扱説明書の「こんな時は」の(2)および(3)をご覧ください。

1 手を洗い、注射する場所を消毒します。設定した単位が正しいことを確認したら、主治医に指示された方法で注射を行います。

2 注射針を皮膚にさし、親指で注入ボタンを最後まで完全に押し込みます。



3 注入ボタンをしっかりと押し続けたまま、5秒以上待ちます。

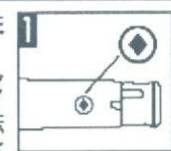


4 注射が完了すると、単位表示窓の中央にダイヤモンド⑥、または矢印⑨が表示されます。これで設定したインスリン量が正しく注射できたことが確認できます。もしダイヤモンド⑥、または矢印⑨が単位表示窓の中央に表示されていない場合は、設定したインスリン量が正しく注射されていない可能性があります。主治医にご相談のうえ、指示に従ってください。注射針を注射部位から抜く時は、注入ボタンを押したまま抜くようにしてください。



⑥注射が終わったら

1 設定したインスリン量が正しく注射されたことを確認するために、注入ボタンが最後まで完全に押し込まれ、単位表示窓の中央にダイヤモンド⑥、または矢印⑨が表示されていることを確認してください。もし、ダイヤモンド⑥、または矢印⑨が単位表示窓の中央に表示されていない場合は、必要なインスリン量が注射されていません。主治医にご相談のうえ、指示に従ってください。



2 主治医の指示に従って、注射針で指をささないよう注意して針ケースを取り付けます。
※まっすぐにかぶせないで、注射針が針ケースを突き破るおそれがありますので十分に注意してください。



3 針ケースを反時計方向に回して注射針を取りはずします。取りはずした針は針先が突き出ないような安全な容器に入れた後、主治医の指示に従って正しく廃棄してください。



4 キャップをつけてください。

5 ご使用中の製剤は30℃以下の室温で、高温や直射日光をさけて保管してください。インスリンが残っていても、ラベルに記載された使用期限を過ぎたものは廃棄してください。

●注射針を取り付けたまま保管したり廃棄しないでください。
針を取り付けたまま保管すると、インスリンがもれたり、カートリッジの中に空気が混入することがあります。



こんな時は

状況 対処法

- (1) 空打ちや注射を行う際に注入ボタンが最後まで完全に押し込めない。また、単位設定ダイヤルが固くて動きにくい、あるいは動かない。

① 注射針を取り付けずに、あるいは針の詰まった状態で単位設定操作を行い、注入ボタンを押そうとしています。
② 新しい注射針を取り付ける。
③ 注入ボタンを最後まで完全に押し込む。この時ダイヤモンドマーク④、もしくは矢印⑤が単位表示窓の中央に表示されます。(たとえ「0」が表示されても最後まで完全に押し込み、ダイヤモンドマーク④、もしくは矢印⑤が中央に表示されているか確認してください。)

④ 空打ちを行う。

② 注射針が詰まっておらず針からインスリンが出てくることが確かであれば、注入ボタンを押す力を強め、ゆっくりと注入ボタンを最後まで完全に押し込んでください。

- (2) 注射針を取り付けずに単位設定を行い、注入ボタンを押した。

正確な注射を行うために、次のことをお守りください。

① 新しい注射針を取り付ける。
② 注入ボタンを最後まで完全に押し込む。この時ダイヤモンドマーク④、もしくは矢印⑤が単位表示窓の中央に表示されます。(たとえ「0」が表示されても最後まで完全に押し込み、ダイヤモンドマーク④、もしくは矢印⑤が単位表示窓の中央に表示されているか確認してください。)

③ 空打ちを行う。

④ 2ページを参照して空打ちを行う。

- (3) インスリンが針先から出てこない。

正確な注射を行うために、次のことをお守りください。

① 新しい注射針を取り付ける。

② 注入ボタンを最後まで完全に押し込む。この時ダイヤモンドマーク④、もしくは矢印⑤が単位表示窓の中央に表示されます。(たとえ「0」が表示されても注入ボタンを最後まで完全に押し込み、ダイヤモンドマーク④、もしくは矢印⑤が単位表示窓の中央に表示されているか確認してください。)

③ 2ページの「③空打ち」を参照して空打ちを行う。

➡ ①～③を繰り返してもインスリンが出てこない場合は、そのキットは使用しないでください。(予備があれば新しいものと交換してください。)

- (4) 単位設定を間違えた(過大あるいは過小)。

まだ注入ボタンを押していない場合は、単位設定ダイヤルを前後に回して正しい単位を設定してください。もし、注入ボタンを少しでも押してしまった場合は、2ページの「③空打ち」を参照し、再度空打ちからやり直してください。

状況

対処法

- (5) どのくらいインスリンが残っているかわからない。

注射針を取り付ける方を下に向け本剤を持ってください。カートリッジホルダーにある目盛り(1目盛り約20単位)がおおよその残量です。この目盛りを単位設定に用いないでください。

- (6) 主治医から指示された設定量まで単位設定ダイヤルが回らない。

本剤はインスリン残量を超えて単位設定できないように設計されています。例えば、指示された量が31単位であるにもかかわらず残量が25単位しかない場合は、25単位を超える単位は設定できません。無理に単位設定ダイヤルを回そうとしないでください(カートリッジに残ったインスリンは、含量表示の300単位に含まれておらず、使用できません)。もし残量が指示された量より少ない場合は、下記のどちらかの方法で注射を行ってください。

① まず、設定できる単位まで注射し、新しい本剤で不足分を注射する。

② 新しい本剤で指示された量を注射する。

- (7) カートリッジ内にインスリンがわずかに残っているのに単位設定ダイヤルが回せない。

本剤は、カートリッジが完全に空にならないよう設計されています。注射可能な300単位のインスリンが既に使われました。

- (8) 単位設定ダイヤルを引っ張った時、ガガッという音がする。

そのキットは使用しないでください。(予備があれば新しいものと交換してください。)

- (9) 単位設定ダイヤルを引っ張った時、単位表示窓に「0」以外の数字が表示される。

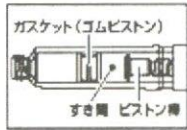
① そのままの状態では注入ボタンを最後まで完全に押し込んでください。単位表示窓にダイヤモンドマーク④、もしくは矢印⑤が表示されます。

② 次に「③空打ち」または「④単位の設定」の操作を行い、単位表示窓に「0」が表示されることを確認してください。

➡ ①～②を行っても、単位表示窓に「0」以外の数字が表示される場合は、そのキットは使用しないでください。(予備があれば新しいものと交換してください。)

- (10) ガasket(ゴムピストン)とピストン棒の間にすき間がある。(右図例を参照)

そのキットは使用しないでください。(予備があれば新しいものと交換してください。)



製品名	日本標準品番号	承認番号	製造期限	販売開始
ヒューマカートN速(キット)	87-2492	7AMY-42	1998年7月	1998年8月
ヒューマカートN速(キット)		7AMY-41		
ヒューマカートN速(キット)		6AMY-406		
ヒューマログ速キット	87-249	21300AMY00277	2001年6月	2001年8月
ヒューマログミックス25速キット		21500AMY00053	2004年12月	2005年3月
ヒューマログミックス50速キット		21500AMY00054	2004年12月	2005年3月
ヒューマログH速キット		21500AMY00055	2004年12月	2005年3月

製造販売元(資料請求先)

日本イーライリリー株式会社

〒651-0086 神戸市中央区磯上通7丁目1番5号

資 料 2

患者向医薬品ガイド記載の手引